

ミステリ読書案内

2024. 1. 11 発行元

第543号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

「このミス2024」を見て!

『このミステリーがすごい! 2024年版』が出た。昨年のミステリを振り返り、そして自分の読書を振り返る良い機会。『このミス2024』の記事を土台にして、少し考えてみよう。どんな年だったかな?

ベストテン作品、読了は2冊

右上に『このミス』今年のベスト10作品を並べてみた。私が発表前に読んでいたのはたったの2冊。米澤穂信の『可燃物』と東野圭吾の『あなたが誰かを殺した』。この現象は毎年のこと。お金がないので単行本を買うのをなるべく控えているから。基本的に文庫本かブックオフなどで買った本を中心に読んでいたので、当然の結果となる。

ベスト20までの作品となると、阿津川辰海の『午後のチャイムが鳴るまでは』と青崎有吾の『11文字の檻』、島田荘司の『ローズマリーのあまき香り』が加わる。45位の範囲まで広げると更に今村昌弘『でいすべる』、米澤穂信『栞と嘘の季節』、早坂吝『しおかぜ一家殺害事件あるいは迷宮牢の殺人』が入ってくることになる。

新刊で読んだのは100冊

巻末のブックリストを見ると、私が新刊で読んだのはちょうど100冊。(ただしこのリストにはジュブナイル、YA、ライト系が含まれていないので、それを加えると110冊くらいになる) ほぼ昨年と同じ数。今年の年間読書冊数は380

冊なので、約三分の一くらいが新刊だったことになる。

年間読書冊数は三年前までは500冊越えていたのだが、このところペースが落ちた。読みたい本を探せなくなったことと、何冊か大作を読むのに時間を取られてしまったことが原因になっている。

ベストテン順位に異議なし

『このミス』のベストテン順位に異議はない。大賛成である。まあ、『可燃物』がやや「こじんまり」の感はあるけれども…。京極夏彦の『鵺の碑』はまだ読んでいない。実のところ『百鬼夜行シリーズ』は『塗仏の宴』でストップしたまま。その本の厚さに圧倒されてしまう。

『可燃物』は第518号で取り上げて紹介した。『あなたが誰かを殺した』はこの後の第547号に登場する予定である。

ベストテン入り作品の中で近々読もうと考えているのは、井上真偽の『アリアドネの声』と小川哲の『君のクイズ』。「本格もの」系統の作品が増えてきているのはとても良い傾向だ。そして直木賞を受賞した永井紗耶子の『木挽町のあだ討ち』も読んでみようかと思わせる作品らしい。時代物なのだけれども「謎

『このミス』今年のベストテン

- | | |
|--------------------|-------|
| 1. 可燃物 | 米澤穂信 |
| 2. 鵺の碑 | 京極夏彦 |
| 3. あなたが誰かを殺した | 東野圭吾 |
| 4. エレファントヘッド | 白井智之 |
| 5. アリアドネの声 | 井上真偽 |
| 6. 木挽町のあだ討ち | 永井紗耶子 |
| 7. 君のクイズ | 小川 哲 |
| 8. 世界でいちばん透きとおった物語 | 杉井 光 |
| 9. 鈍色幻視行 | 恩田 陸 |
| 10. ちぎれた鎖と光の切れ端 | 荒木あかね |

解き」要素が魅力的なようだ。10位以下で言うと伊吹亜門の『焔と雪』は見落としていた。本探しをしなれば…。

『このミス』の結果を見ていると、投票している人達の好みが「いかにもマニアっぽい選定だなあ」と思ってしまう。世の中の多くの読者の思いとは少しずれているのかもしれない。「米澤穂信ってある意味玄人好みだよ」と私は感じている。選者の年齢層が上がってきていることも関係していると思う。

私が頼りにしているブックリスト

私が『このミス』を心待ちしている理由のひとつが巻末のブックリスト。読み落としのチェックができるのが有難い。これから読むべき本をピックアップして、文庫本なら新刊書店で探し、単行本なら図書館で購入したものをひたすら待つという形になっていく。読んでみて印象に残ったものは「昨年出た本の中から」というテーマ設定で紹介していくことになるだろう。

「このミス」35年目に

『このミステリーがすごい!』は今年で35年目になる。今号に特に特集があるわけではないが、長く続いていること感謝したい。裏扉内側に歴代の一位作品の一覧が載っている。1988年の一位が船戸与一の『伝説なき地』。1989年の一位が原奈の『私が殺した少女』。船戸も原もベストテンの常連だったのだが、今はもう亡くなってしまった。時間が流れるのは速いものだ。

『このミステリーがすごい!』は最初の年から買い始めたが、途中4冊ほど飛び飛びになっている年がある。当時は、こんなに長く続く本だと思っていなかったせいもあった。古本屋でも探してみるのだが、今は手に入るの難しそうである。その年その年を振り返る時、とても役に立つ本。今まで気付かなかった作家の過去の作品を遡れるのも有難い。ネット上で調べてみても作品目録が出ていない作家もあるので…。